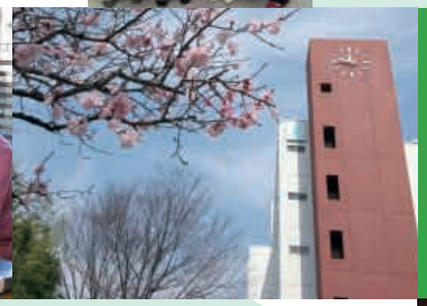

平成19～20年度
杏林大学地域交流活動報告書

地域共創を目指して

杏林大学
KYORIN
地域交流支援室

〒192-8508 東京都八王子市宮下町 476
Tel：042-691-0011（代）Fax：042-691-3809
http://www.kyorin-u.ac.jp/
Mail：area@ks.kyorin-u.ac.jp

杏林大学
KYORIN

杏林大学における地域交流

杏林大学学長
長　澤　俊　彦

今日の大学は教育、研究とともに地域貢献が重要な使命とされています。杏林大学には三鷹キャンパスと八王子キャンパスがあり、三鷹キャンパスには医学部の付属病院があります。この病院には１日2,000人以上の外来患者さんが訪れ、入院ベッド数は900床以上あり、地域医療に日々貢献しています。特に救命救急センターは心筋梗塞や重症火傷の診療、脳卒中センターは急性期の脳梗塞や脳出血の診療に昼夜を問わずあたっています。

一方、八王子キャンパスの保健学部・総合政策学部・外国語学部の３学部では八王子市の主催する様々な催しに学生や教員が積極的に参加してお手伝いをしたり、地元の加住小中学校で健康診断の手伝いや英語の授業の手伝いなどを行なっています。

また三鷹キャンパスの大学院講堂や八王子スクエアビルで多数の専門教員による連続講座や講演会を開催しています。目下のところは八王子市を中心にして三鷹市、調布市、羽村市などの地域での交流活動でありますが、今後はさらに多摩地区の他の地域に活動範囲を広げて地域の方々と交流を深めて地域交流を一層促進する予定であります。

今回発行したこの報告書が関係諸団体の皆さまの今後の諸活動の一ご参考になれば、本学教職員一同望外の喜びとするところであります。

CONTENTS

地域交流の方針 …… 4

全学的取組

まちづくりフォーラム　「八王子のまちづくりと大学の果たす役割」 …… 5

「まちの『たまご』を孵化させよう」 …… 6

八王子産学公連携機構 …… 7

東京都羽村市と連携して公開講演会を開催 …… 8

八王子市の伝統文化をテーマとした講義を外国語学部で開講 …… 9

健康面での交流活動

保育ボランティア活動 …… 10

老人クラブ連合会と共催で病気の治療や予防に関する講習会を開催 …… 11

健康面での交流活動一覧 …… 12

地域活性化面での交流活動

地元町会との交流活動 …… 15

「八王子観光コンシェルジュ」の取り組み …… 16

八王子　産学公連携機構活性化アイデア発表会への参加 …… 17

地域活性化面での交流活動一覧 …… 18

教育面での交流活動

八王子市立加住中学校でのメンタルサポート活動 …… 19

八王子市立高倉小学校における英語指導 …… 20

昭島市立清泉中学校の生徒と留学生との交流 …… 21

教育面での交流活動一覧 …… 22

平成19年～平成20年度公開講演会 …… 23

地域交流の方針

杏林大学は平成17年12月に『中長期改革に関する提言』を策定しました。その中では「地域との交流による特色ある大学」を目指すことが謳われています。

本学における地域交流活動の将来的な目標は、教職員および学生が、本学の理念である「真・善・美の探求」の精神に基づき、キャンパス周辺地域のコミュニティの発展に寄与することにありますが、同時に教員の「研究の場」、学生の「学びの場」をキャンパス周辺地域に求めることを通じ、より深く学んでいきたいとも考えています。

こうした大学による地域交流活動は、「コミュニティ・ビジネス（＝地域社会が必要とするサービスや物財を営利目的に偏らず、きめ細かく継続的に提供する事業）」の一形態といえますが、今後、「経済・文化・情報・価値意識」の地球規模での一体化が進行すると同時に、地域レベルでの、または地域間の経済活動・市民の連帯・文化の多様性などが顕著になってゆく傾向が強まる、すなわち「グローカリゼーション（glocalization）」の時代にあってさらにその重要性が増すといえます。

本学における地域交流活動をより推進するため、三鷹・八王子キャンパスにおいて、地域の様々な主体が実施している既存の各種事業へ参与すること、さらに大学独自の新規事業立ち上げを行うことを活動内容とする、『地域交流支援室（八王子キャンパス）』および『地域交流委員会（医学部・保健学部・総合政策学部・外国語学部４学部の教員及び事務職員で構成）』を平成18年度に設置しました。地域交流委員会・地域交流支援室は、「地方自治体や商工会などと連携を取りながら地域交流・連携活動に関する地域の要望や学内の活動情報を一元的に把握し、大学のもつ人的・知的資源を効率良く活用することによって地域社会により有益な貢献をし、本学に対する地域住民の方々の理解をさらに深めること」をその目的としています。

地域交流委員会が中心となってまとめた本報告書では、上記の理念に基づき、平成19～20年度において本学４学部、医学部付属病院、事務部が行ってきたさまざまな地域交流活動を「健康」「地域活性化」「教育」の３分野に分けてご紹介していきます。

まちづくりフォーラム

八王子“地域共創”フォーラム

「八王子のまちづくりと大学の果たす役割」

平成19年11月10日（土） 八王子市学園都市センター

八王子市の更なる活性化や発展に杏林大学が果たすべき役割について話し合う八王子“地域共創”フォーラムを開催しました。それまで杏林大学で行ってきていた教員や学生個別の地域支援活動を、大学として組織的に地域連携活動を行っていくスタートポイントとなります。

フォーラムは、まず外国語学部・谷口賢一郎が基調講演を行い、海外での大学と都市が共生しているいくつかの事例を引用しながら、八王子市が取り組むべき「まちづくり」の要点を提案しました。次にパネルディスカッションとして、第１部が「文化・産業の視点からのまちづくり」を、第２部は「健康・人材育成の視点からのまちづくりについて」を、下記パネリストがそれぞれこれまでまちづくりへの係わりかたを報告し、今後大学との連携でどのようにして八王子を活性化させるべきか意見交換をしました。途中で黒須隆一・八王子市長から、このフォーラムの成果への期待をいただきました。最後に長澤俊彦・学長が、今後一層、八王子市と大学が一体となったまちづくりに協力していきたいと抱負を述べ、閉幕しました。

パネルセッション第１部：文化・産業

コーディネーター	田中　信弘		総合政策学部 教授
パネリスト	西川　古柳	氏	八王子車人形 五代目家元
	佐藤　　広	氏	八王子市総合政策部市史 編さん室長
	冨貴澤繁幸	氏	八王子市市民活動推進部学園都市文化課 課長
	橋本　　孝	氏	（株）荒井呉服店 常務取締役
	岩﨑　公生		外国語学部 教授

パネルセッション第２部：健康・人材育成

コーディネーター	金子　哲也		保健学部 教授
パネリスト	尾嵜　敏夫	氏	八王子市健康福祉部次長・八王子市保健所保健総務課長
	北島　　勉		総合政策学部 准教授
	大嶺　智子		保健学部 教授

まちづくりフォーラム

第2回八王子まちづくりフォーラム

「まちの『たまご』を孵化させよう」

平成20年11月8日（土）　八王子市学園都市センター

八王子市の多くの資源を活用するために、地域の人や組織のつながりや信頼関係などのネットワークを意味する「ソーシャル・キャピタル」と、地域資源を発掘し新たな価値を創造する「地域イノベーター」という２つの概念を中心として、さらなる八王子の活性化をめざすため、平成19年に引き続きフォーラムを開催しました。

長澤俊彦・学長の挨拶のあと、総合政策学部・笈川博一がエルサレムとアマルナの２都市の「成功したまち」、「失敗したまち」に関する基調講演を行いました。次にパネルディスカッションとして、地域との連携を続けている教員や学生、市の職員、まちづくりに参加する市民などがパネリストとなり、「成功したまち」へのキーワード、「ソーシャル・キャピタル」の充実、「地域イノベーター」の発掘と活用についてのパネルディスカッションを行いました。なかでも学生から町内会の祭礼への学生の参加などを通じて、本学周辺に一人暮らしをする学生と、近隣町内会との交流経験が生き生きと報告されました。その後参加された市民の皆様からの意見をいただいたほか、本学卒業の八王子市議会議員・鈴木玲央氏から、本学のさらなる地域交流活動を期待するというご意見をいただきました。

パネラー	柳沢　盛仁	氏	八王子市税務部税制課
	五島　　宏	氏	civic studio evan 主宰
	田中　信弘		総合政策学部教授
	進邦　徹夫		総合政策学部准教授
	岡村　　裕		総合政策学部准教授
	木村　有里		総合政策学部講師

八王子産学公連携機構

八王子産学公連携機構の活動については、3学部の代表者が機構と大学をつなぐ「リエゾン・プロデューサー」として参加しています。また、例年12月上旬に開催される「研究成果発表会」及び「活性化アイディア発表会」に積極的に参加し、平成19年度は10、同20年度は12の研究室・ゼミナールが本学から参加しました。平成19年度および20年度の活動の詳細は以下の通りとなっています。

＜平成19年度＞

○ リエゾンプロデューサー

第１マッチング推進部会　保健学部　村椿　春博　准教授　　保健学部　島　　幸夫　准教授

第２マッチング推進部会　総合政策学部　進邦　徹夫　准教授（副部会長）　外国語学部　古本　泰之　講師

○「研究成果発表会」及び「活性化アイディア発表会」参加研究室（指導教員）

●保健学部

「滝山丘陵（八王子市）の降水成分とその化学動態 16 年間の軌跡―酸性雨の犯人は何処に？（1991～2007 年）」（金子哲也教授・松塚雅博学内講師・関健介学内講師）

「乳幼児を対象とした心拍・呼吸動態の無拘束計測に関する検討 －ベビーカー搬送中の雑音抑制に関する基礎的検討」（石山陽事教授・三谷博子講師）

「居眠り検知を目的とした生理学的検出パラメータの検討」（石山陽事教授・三谷博子講師）

「老人クラブに所属する高齢者の加齢イメージと生活満足度の関係」（近藤ふさえ教授・鈴木麻美助教）

●総合政策学部

「八王子大学生改善健康プラン」（田中信弘教授）

「同窓会プロデュース大作戦!!」（田中信弘教授）

「屋台レンタルプロジェクト フリーター、ニート問題へ新アプローチ」（田中信弘教授）

「心のはちあわせ 思いがけない優しさとの出会い」（進邦徹夫准教授）

「子どもの新しい居場所作り－地域と家庭がふれあい協力しながら子育てするまち」（進邦徹夫准教授）

「エコバッグ八王子スタイル レジ袋の削減とエコバッグの推進」（進邦徹夫准教授）

＜平成20年度＞

○ リエゾンプロデューサー

第１マッチング推進部会　保健学部　村椿　春博　准教授　　保健学部　島　　幸夫　准教授

第２マッチング推進部会　総合政策学部 進邦 徹夫 准教授（副部会長）　外国語学部　古本　泰之　講師

○「研究成果発表会」及び「活性化アイディア発表会」参加研究室（指導教員）

●保健学部

「地域で生活する高齢者の家庭での食事の実態と満足度」（近藤ふさえ教授）

「科学捜査を目的とした視覚・吸気刺激によるSSR検出・分析法の新たな提案：事象関連電位併用による」（石山陽事教授・三谷博子准教授）

「睡眠時無呼吸症候群（SAS）の抽出とその型判定まで可能な指先センサ開発の基礎的研究」（石山陽事教授・三谷博子准教授）

「チャイルドシート着用走行時の心拍・呼吸動態の無拘束計測に関する基礎的検討」（石山陽事教授・三谷博子准教授）

「運転シミュレータを用いた居眠り検知の生理学的検討」（石山陽事教授・三谷博子准教授）※優秀賞受賞

●総合政策学部

「八王子をActiveにChange ！　英語村による活性化」（田中信弘教授）

「工場見学でまちおこし」（田中信弘教授）※優秀賞受賞

「緊急指令：八王子大災害発生」（進邦徹夫准教授）

「カーフリーデー：エコへの第一歩」（進邦徹夫准教授）

「シネマティックシティ八王子：映画で拓く八王子のまち」（進邦徹夫准教授）※優秀賞受賞

「八王子から世界へ：メダリストプランニングの挑戦」（木村有里講師）

「八王子酒造巡り：もうオヤジクサイなんて言わせない！」（木村有里講師）

東京都羽村市と連携して公開講演会を開催

これまで本学が実施する公開講座は、本学三鷹キャンパスで独自に実施するもの以外に平成16年度から八王子学園都市大学「いちょう塾」として公開講演会ならびに連続公開講座を、また平成17年度からは調布市民会館「たづくり」を会場とした調布市近隣大学公開講座として公開講演会を、さらに同年度後半からは三鷹ネットワーク大学に加盟して連続公開講座等を実施してきました。

平成19年度は地域交流委員会が、これまでの本学の地域連携の対象地域を拡大することを目的として、公開講演会の実施をひろく多摩地域の自治体に働きかけた結果、まず羽村市生涯学習センター「ゆとろぎ」と連携して２回の公開講演会が実現しました。第１回は羽村在住で本学前医学部長である小林宏行名誉教授、第２回は金田一秀穂外国語学部教授が担当して実施しましたが、一般市民の方々に杏林大学をよく知っていただくきっかけとなったのではないかと思います。

平成20年度は、前年度に引きつづき同生涯学習センターを舞台として公開講座の開催に協力しました。９月には、同センター企画の連続公開講座「中高年をいきいきと過ごすための講座」として保健学部・朝野聡講師が「中高年の“健康”を考える」をテーマに、10月には医学部精神神経科学・古賀良彦教授が「心の安らぎにつながるユーモア･笑い」をテーマに、そして平成21年３月には外国語学部･本田弘之教授が「異文化理解」をテーマとする公開講演会を行ないました。特に10月のテーマは同センターの要望に応えた企画で、具体的な地域の社会的ニーズに沿った講演活動となりました。

平成21年度以降もひきつづき羽村市等多摩北部地域と連携関係を広げて公開講演会活動を拡充していく予定です。

八王子市の伝統文化をテーマとした講義を外国語学部で開講

外国語学部応用コミュニケーション学科において、地域交流委員会の活動の一環として本学が立地する八王子市に存在する伝統文化をテーマとする講義、「地域の伝統文化」を平成20年９月から開講しました。

講義は３年生以上を対象に実施し、外部講師として八王子市で伝統文化に関わっている多くの方々に登壇していただきました。

八王子市には八王子車人形をはじめとして数多くの伝統芸能が継承されています。本講義は、まず前提として、芸能の内容と楽しみ方（鑑賞する視点）、そして現在行われているさまざまな保存・活性化活動について理解し、その上で学科内に設置されている表現メディア・観光文化の両コースでの学びを通じて伝統芸能をどのように発信していくかというテーマについて考える内容となっています。

平成20年度　講義内容

日程	内容	担当
10月　1日（水）	伝統文化の活性化と地域振興	外国語学部　講師　古本　泰之
10月　8日（水）	伝統文化を生かした八王子市のまちづくり	八王子市市民活動推進部 冨貴澤　繁幸　氏
10月15日（水）	日本の伝統文化の歴史と現在（1）	文楽研究家 高木　秀樹　氏
10月22日（水）	日本の伝統文化の歴史と現在（2）	文楽研究家 高木　秀樹　氏
10月29日（水）	八王子の伝統芸能の現状（1）	八王子市総合政策部市史編さん室 佐藤　広　氏
11月　5日（水）	八王子の伝統芸能の現状（2）	八王子市総合政策部市史編さん室 佐藤　広　氏
11月19日（水）	日本の伝統人形芝居	八王子市車人形５代目家元 西川　古柳　氏
11月26日（水）	八王子車人形の現状と将来	八王子市車人形５代目家元 西川　古柳　氏
12月　3日（水）	外国人の視点からみた八王子の伝統文化	外国語学部 教授　楠家　重敏
12月10日（水）	日本の伝統文化の海外への展開	高木　秀樹氏 西川　古柳氏
12月17日（水）	パネルディスカッション	外部講師+学生代表
1月　7日（水）	まとめ	外国語学部　講師　古本　泰之

八王子市車人形5代目家元　西川古柳氏による講義

八王子市市民活動推進部　冨貴澤繁幸氏による講義

文楽研究家　高木秀樹氏による講義

〈事例紹介〉

保育ボランティア活動

【活動の目的と概要】

育児不安の緩和・情報提供などを目的とした地域における子育て支援活動の一環として、看護学科母子看護学・助産学教室と地域看護学教室の教員と学生達によって、地域の育児サークルと連携した子育て支援活動を行っています。特に、多胎児として生まれた子ども達の月１回のサークル（じぇみにくらぶ）、年２回（多摩多胎ネット：ツインズマーケット）の講習会時の講師や保育ボランティアなど、また、年間３回、小さく生まれた子ども達の会（ぴあんず）の保育ボランティアを実践しております。

保健学部看護学科　准教授　佐藤喜美子

【参加学生の感想】

私たちは大学生活の中で、多胎児の保育ボランティアやみつご育児中の家庭の保育ボランティアに参加してきました。当初の動機はただ子ども達と遊びたいという単純なものでしたが、少しずつお母さん方の子育ての話や気持ちを聞かせて頂く中で、親の心理や育児上の困難さ、地域の支援不足などに気づくことができました。また、安全に保育することの大変さもありましたが、親たちの強さ・たくましさも感じ多くの学びがありました。

保健学部看護学科　４年　内田佳見　木下朋子

〈事例紹介〉

老人クラブ連合会と共催で病気の治療や予防に関する講習会を開催

地域の皆様の健康維持に役立ててもらう目的で、三鷹市老人クラブ連合会と共催で２回の公開講演会を開催しました。第１回は「転倒防止」と題して平成19年４月、第２回は「脳卒中の予防と簡単な介助」と題して、翌年（平成20年）２月８日に三鷹市公会堂で開催しました。第１回は、高齢医学鳥羽研教授が転倒によるリスクや転倒事故の予防法について、第２回は、脳神経外科塩川芳昭教授が「脳卒中の治療と予防」、リハビリテーション科岡島康友教授が「脳卒中を予防するためには運動が大切」という講演をして理学療法士とともに簡単に行える体操を紹介しました。

健康面での交流活動一覧

実施年月日	取組タイトル	内容	担当教員	学生の参加	場所
平成18年より毎年1回3～4月平成20年（第3回）は3月	三鷹市民公開講座「腎臓について考えるフォーラム」	一般市民と通院中の患者/家族等対象。公開講座の開始後、当院腎臓内科にかかりつけの、慢性腎不全患者の緊急導入が減少し、計画導入の際の透析治療への患者さんなりの理解と生活調整がスムーズに行えるようになった。	第一内科（腎臓内科） （参加者）杏林大学スタッフ：約30名 看護師：2-3A病棟、腎透析センター 看護スタッフ一同 栄養相談室：栄養士 医療福祉相談室：ソーシャルワーカー 薬剤部：薬剤師	－	三鷹産業プラザにて開催
平成19年5月12日、11月10日、平成20年2月16日、6月14日、11月22日	多摩皮膚科専門医会	本学皮膚科が主催し、毎回テーマを決めて多摩地区の診療機関から皮膚科診療に関する発表を行い、討論を行うことで参加者の皮膚科診療のスキルアップに貢献している。また講演者を招き、専門分野についての理解を深めている。	地域の開業医、勤務医、および本学皮膚科医局員全員	医学部5年生のポリクリで当科実習中の学生6～7名	－
平成19年6月2日、12月1日、平成20年6月7日、10月24日	多摩アレルギー懇話会	本学皮膚科が主催し、講師を招いてアレルギーの分野での最新の知識を得ることを目的として開催。アレルギー疾患はきわめて頻度の高い重要な分野であり、出席者を啓発しアレルギー疾患の診療の質を高めることに貢献している。	地域の勤務医、および本学皮膚科医局員全員	－	－
平成19年6月26日、平成20年4月15日	三鷹医師会講演会	毎回テーマを決めて1時間にわたり当科のスタッフが皮膚科診療に関する講演を行っている。討論は活発であり、三鷹医師会の先生方が皮膚科の知識を深めることに貢献している。	准教授、学内講師が上記2日間のそれぞれの講演を担当。参加者は三鷹医師会会員（全診療科を含む）約40名。	－	－
平成19年9月26日、平成20年3月5日、10月4日	皮膚合同カンファレンス	本院皮膚科が主催し、本院皮膚科への紹介症例についてのフィードバックの他、医局員が皮膚科診療についての教育的な発表をしている。毎回参加者同士で活発な討論をしている。日常診療にすぐに役立つ専門的知識が得られるとの評価を頂いている。	本学周辺地区における種々の専門領域の開業医約40名、および本学皮膚科医局員全員	－	－
平成20年9月11日（木）	三鷹・武蔵野認知症連携を考える会	認知症の医療連携の地域支援ネットワーク 【現状と課題について発表】 行政の立場から：①武蔵野市の認知症対策について　ー要支援・要介護認定調査結果報告からー、②三鷹市における対策について 地域包括支援センターの立場から：現状報告とさまざまな問題点の提示と意見交換。 医療ー認知症診断・治療の地域連携パス	高齢医学　教授・准教授	－	三鷹市医会館
平成19年4月27日 平成20年2月8日	第2回三鷹市老人クラブ連合会・杏林大学病院　合同講演会	三鷹市老人クラブ連合会と共催で２回の公開講演会にを開催。第１回(2007)は、「転倒によるリスクや転倒事故の予防法について」、第２回（2008）は、「脳卒中の治療と予防」と「脳卒中を予防するためには運動が大切」という講演をした。	病院長、高齢医学教授、脳神経外科教授、リハビリテーション科教授、脳神経外科助教、リハビリテーション科療法士、リハビリテーション科療法士、看護部師長、看護部副師長	－	三鷹市公会堂
平成20年3月30日	前立腺癌市民公開講座	前立腺癌の診断治療についてそれぞれ一般市民を対象に講演を行う。各々参加者は200名前後。公演後の個別相談にも応じ、市民との交流を深めた。	医学部泌尿器科　講演	－	府中グリーンプラザ
平成20年9月	三鷹武蔵野小金井排尿障害勉強会	訪問看護師、訪問介護師、老健施設職員を対象にスキンケアの実践と夜間頻尿症例の事例検討を行った。スキンケアの実践では石けんの種類と使い分け方、実際の清拭の行い方を模型を使い解説し、実地練習した。参加者は約80名	医学部泌尿器科	－	武蔵野商工会議所
平成20年1月～3月	心肺蘇生法普及のためのビデオ作成	三鷹市医師会からの依頼により、心肺蘇生法の市民向けビデオを武蔵野・三鷹ケーブルテレビの協力により制作。期間中に１日に５回スポット放送が繰り返し行われた。これらにより、市民の皆様への心肺蘇生法の啓蒙活動が行われたと考えられる。	救急医学教室　助教・主任教授 高度救命救急センター　看護師	－	－

実施年月日	取組タイトル	内容	担当教員	学生の参加	場所
平成21年1月、11月	多摩地区フットケア研究会（第1回、第2回）	第1回「下肢救済・フットケア　各科の戦略」①血行再建　②局所治療　③リハビリテーション　④装具・靴各分野におけるフットケアの戦略について提示、どのような協力体制がとれるのか、各科のフットケアに対する考え方のすりあわせを行った。第2回「受傷虚血肢における地域連携」地域の施設間連携ネットワークｊWALKについて高齢者のリハビリテーションについて地域連携によって救済することができた重症虚血枝症例下腿潰瘍のフットケア等を討論した。	形成外科 主催リハビリテーション科 血管外科 WOC看護師 糖尿病認定看護師：学外５機関より５名。	－	本学医学部大学院講堂
平成20年3月、10月、 平成２１年４月、10月。	多摩NST研究会第1回-第4回	多摩地区におけるNST活動を活性化させるために、年2回行っている。NSTの運営における問題点と解決策PEG最前線在宅における管理栄養士の役割地域連携連携在宅NST	世話人　形成外科 WOC看護師 糖尿病認定看護師 管理栄養士 薬剤師	－	－
平成20年3月29日日本褥瘡学会東京支部フォーラム「経管栄養の工夫」 平成20年8月5日上尾医師会「最新の褥瘡・創傷治療」 平成20年9月27日創傷治癒を考える会　金沢「フットケア最前線」	各種　講演	褥瘡治療、フットケア、下肢救済の治療に関する講演褥瘡治療、フットケア活動の啓蒙企業主催のものは省いた。	形成外科	－	－
平成20年 1月19日	日本褥瘡学会関東甲信越地方会　東京支部在宅褥瘡セミナー	在宅における褥瘡に焦点を当て、在宅の褥瘡治療のネットワーク、連携を目的とした。東京都の在宅褥瘡の現状の調査 在宅における褥瘡の問題点在宅における褥瘡予防	主催　形成外科 WOC看護師	－	本学医学部大学院講堂にて
毎年2月 第3土曜日	多摩麻酔懇話会	平成元年より、多摩地域の麻酔科医の交流を深めるために行っている学術集会。麻酔に関する臨床的な演題を約10題と会長による特別講演などを行っている。現在21病院が会員であり、毎年100～150人程度の参加者である。	医学部麻酔科学教室　教授 医学部麻酔科学教室　講師	－	－
毎年11月 第3土曜日	三多摩緩和ケア研究会	6年前より、多摩地域の訪問看護ステーション、ホスピス、緩和ケア病棟、緩和ケアチームなどで活動するスタッフを対象にした研究会。緩和ケアや地域の医療連携などに関する演題や著明な講師による講演などを実施。毎年150人程度の参加者。	医学部麻酔科学教室　教授	－	－
平成20年度より、年三回シリーズ（時期は毎年異なる）	院内緩和ケア講演会	年３回、院内の職員および、地域の病院･診療所のスタッフを対象に実施。（一般の参加は不可）。内容は「緩和ケアとは」「薬物療法」などに始まり、３回目の講演会では希望の多い題目についても講演を行う。参加者は150人前後で、大学院講堂で開催。	医学部腫瘍科学教室 医学部麻酔科学教室 医学部付属病院　緩和ケア認定看護師 （本学がんセンター緩和ケアチームとしての活動です）	－	－
平成21年10月20日～	武蔵野・三鷹地域医療連携パス作成委員会	武蔵野および三鷹医師会と本学附属病院・武蔵野赤十字病院における主要悪性腫瘍等の術後フォロー病診連携について検討。共通の連携パスを作成。本学消化器一般外科は、胃癌の術後連携パス作成責任者が胃癌パスの分科会にて作成中。	（消化器一般外科） その他各診療科の代表者	－	－
1.　11月15日（年2回開催） 2.　11月4日（年2回開催） 3.　12月2日（年2回開催）	1.多摩ESDクラブ 2.多摩胃考会 3.多摩肝胆膵クラブ	1.多摩地区で積極的に内視鏡的粘膜下層剥離術を行っている施設が集まり、症例を検討。時に関連する領域エキスパートが講演。 2.本学周辺で内視鏡を積極的に行っている開業医に毎回テーマを決めて議論してもらい、関連する講師が講演した。	すべての会で（外科講師）が施設世話人、2は代表世話人	－	－

実施年月日	取組タイトル	内容	担当教員	学生の参加	場所
通　　年	保健室補助、特別支援教育補助、養護教諭職務補助、障害児教育補助	【1】定期健康診断の補助活動 【2】訪問ボランティア （相談室：話し相手･遊び相手） 【3】保健室の補助活動	保健学部	【1】保健学科、健康福祉学科学生延べ25名 【2】保健学科延べ５名 【3】保健学科、看護学科延べ５名	八王子市立加住小学校
通　　年	知的障害者収容施設へのボランティア派遣	戸吹育成園（知的障害者収容施設）にボランティアを派遣し、入所者へのケアを行っています。	保健学部	保健学部生	戸吹育成園
毎年9月～11月	ＣＰＲ・ＡＥＤ操作法と、救急時対応。	八王子市立中学校の教員を対象に、ファーストエイドの対応の講習と、ＣＰＲ・ＡＥＤ操作法演習を実施しました。	保健学部	保健学部生	八王子市立中学校
毎年２月（一部適宜）	心の発達とその支援	ＮＰＯ子育てネット八王子電話相談担当者への講演とスーパーバイズ。	保健学部	－	ＮＰＯ子育てネット八王子
毎年７月下旬～９月上旬	中高齢者約40名を対象とした健康測定および運動指導	中高齢者約40名を対象とした健康測定および運動指導を行いました。	保健学部	－	三鷹市
平成19年度	保育ボランティア	小さく生まれた子ども達の会『そらまめの会』の青空保育の機会に、保育ボランティアとして参加しました。	保健学部	保健学部生	八王子市
毎月１回	精神保健相談	多摩府中保健所主催の三鷹、武蔵野市民対象の精神保健相談をしています。	保健学部	－	三鷹市健康センター
通　　年	精神障害者のグループホームと作業所、生活支援センターの運営	精神障害者のグループホームと作業所、生活支援センターを運営しています。	理事兼顧問医：保健学部	－	社会福祉法人えりじあ
月１回程度夕方相談（不定期）	三鷹市知的障害児施設での顧問医師	三鷹市知的障害児施設での顧問医師をしています。	保健学部	－	社会福祉法人にじの里
通　　年	精神障害者作業所での顧問医師	精神障害者作業所での顧問医師をしています。	保健学部	－	府中市・ドリーム工房
年１回以上	身近な水環境の全国一斉調査	身近な水環境の全国一斉調査（谷地川探検隊として参加しました）。 八王子の分担谷地川上流部大気汚染ネットワーク・２kmメッシュデータ測定（滝山街道沿い２点）を行いました。	保健学部	保健学部生	八王子市谷地川、滝山街道
毎年6月の第2または第3土曜日	事故予防・応急手当の講習会『いざという時のために』の開催	事故予防・応急手当の講習会『いざという時のために』の開催（多摩地域の多胎育児中の親を対象とし、救急救命士課程の講師・学生の協力を得て開催）をしました。	保健学部	保健学部生	八王子キャンパス
平成20年7月30日	病院ボランティア	三愛病院の納涼祭での患者の誘導・見守り、飲食品作成補助などを行いました。	保健学部	看護学科３年生12名	三愛病院
平成20年６月	CPR・AED操作法と、救急時対応。	CPR・AED操作法と、救急時対応、また教員対象にファーストエイドの対応の講演と、CPR・ＡＥＤ操作法演習を行いました。	保健学部	保健学部生	八王子市立椚田中学校
通　　年	生活支援ボランティア	ファロー四徴生徒の生活支援・学生派遣を行いました。	保健学部	保健学部生	八王子市立椚田中学校
平成20年５月	定期健康診断補助活動（派遣学生の調整）	定期健康診断補助活動（派遣学生の調整）を行いました。	保健学部	保健学科３年生１名	八王子市立東浅川小学校

〈事例紹介〉

地元町会との交流活動

【活動の目的と概要】

大学周辺の下宿学生が地域福祉の担い手へと成長することを目指して、2008年４月から、学生と地元町会との交流活動を始めました。杏ジャム作り、盆踊り、お祭りなどに参加して、交流が深まりつつあります。

総合政策学部　総合政策学科　教授　野山　修

【参加学生の感想】

大学までずっと野球を続けてきたため、野球関係の交友は多くありました。しかし、地域の皆様との杏ジャム作りや盆踊り、町内会の祭礼などに参加したことを通じて、様々な人との出会い、ふれあいを得ることができました。これまで野球しか頭にありませんでしたが、今までの私の考え方が少し変わったような気がします。今後もこの活動を続け、自分自身の成長につなげていきたいと考えています。

総合政策学部　総合政策学科　３年　高橋　竜史

〈事例紹介〉

「八王子観光コンシェルジュ」の取り組み

【活動の目的と概要】

平成19年12月、「道の駅八王子滝山」のロビーコーナーを借りて、岩﨑ゼミ生が観光案内を初めて行いました。その際に「八王子観光コンシェルジュ」と自ら命名しました。その後のコンシェルジュ活動は、平成20年５月の八王子駅前「学生天国」、７月～９月に再度道の駅八王子滝山、11月に高尾山口駅前と繋ぎ、そして12月にその集大成として「市長ふれあいトーク」に出場、それまでの実験成果を報告しました。

外国語学部　応用コミュニケーション学科　教授　岩﨑　公生

【参加学生の感想】

平成20年12月13日、八王子駅前の学園都市センターイベントホールにおいて、平成20年度「市長ふれあいトーク」が開催されました。岩﨑ゼミとしては一昨年に続き２回目の出場となりました。観光研究ゼミに所属する私たちは八王子市の観光立市化を願い、その具体案として「八王子観光コンシェルジュ」の提案を行いました。

当日本番を迎える前に現場重視のフィールドワークを重ね、情報の収集と資料作成を行い、直前にはプレゼン練習等々にゼミ生全員で取り組んできました。

この機会を通して、私たちひとりひとりが八王子市の「観光交流によるまちづくり」を考えることで地域と関わることの意義を学びました。同時に、ゼミ生仲間が一致団結してひとつの目標に向かった結果、優秀賞という評価をいただけたことにより大きな達成感を共有することができました。

岩﨑ゼミナールは今後も八王子市に軸足をおきつつ、地域の観光による「まちづくり」と「ひとづくり」を推進することを目標としています。

外国語学部　応用コミュニケーション学科　３年　佐藤　瑞穂

〈事例紹介〉

八王子産学公連携機構「活性化アイデア発表会」への参加

【活動の目的と概要】

教育活動としては、ゼミナールで八王子市の産学公連携機構が主催する研究発表会に近年出場しています。2008年は「八王子をActiveにChange！～英語村による活性化～」と「工場見学でまちおこし」の２チームが参加し、後者が優秀賞を獲得することができました。また、2008年11月に開催された杏林大学の「八王子まちづくりフォーラム」のパネリストを務めました。

総合政策学部　企業経営学科　教授　田中　信弘

【参加学生の感想】

ゼミナールの活動として、八王子産学公連携機構の主催による「第6回はちおうじ企業・地域活性化アイデア発表会」に参加しました。地域活性化のプランとして我々のチームが提案した「工場見学でまちおこし」が優秀賞に選ばれました。３か月に及ぶ研究作業の成果として共同作業を行った経験が結実したことをうれしく思います。

総合政策学部　企業経営学科　３年　河上　雄一郎

地域活性化面での交流活動一覧

実施年月日	取組タイトル	内容	担当教員	学生の参加	場所
平成19年８月	通訳活動	台湾・高雄市との友好都市提携に伴う高雄市関係者の八王子市訪問における学生の通訳活動を行いました。	外国語学部	外国語学部生	―
平成19年度	慰問演奏	本学吹奏楽団が、市内養護老人ホーム、障害児施設などで慰問演奏を行いました。	保健学部	吹奏楽団メンバー	―
平成19年５月	寮祭手伝い	「八栄寮」における寮祭の手伝い、入寮者へのスポーツ指導を行いました。	外国語学部	外国語学部生	―
平成19年２月	日野市主催のイベントに参加	日野市主催のイベント「藝術文化の薫るまち　村上敏明と歌う「第九」に、TAMA21交響楽団員として参加しました。	保健学部	―	―
平成19年度	清掃ボランティア	八王子祭りに清掃ボランティアとしてゼミ生が参加しました。	外国語学部	外国語学部生	―
平成19年12月	That's八王子学への参加	八王子市主催第３回「学生と市長とのふれあいトーク（That's八王子学）」にゼミ生が参加し、提言を行いました。	総合政策学部 外国語学部	総合政策学部生 外国語学部生	―
平成19年６月	「市長タウンミーティング」への参加	八王子市主催「市長タウンミーティング」にゼミ生18名とともに参加しました。	外国語学部	外国語学部生	川口市民センター
平成19年12月	八王子市主催フォーラムに参加	八王子市が主催する『げんきフォーラム：魅力ある観光都市をめざして～高尾に外国人観光客を～』に公募市民の代表パネリストとしてゼミ生が参加しました。	外国語学部	外国語学部生	―
平成20年度	八王子地元企業メダリストプランニング社訪問	八王子のスポーツ用品メーカーであるメダリストプランニング社を訪問し、大学生による商品プロモーション企画を提案しました。	総合政策学部	総合政策学部木村ゼミ３年生	―
平成20年12月	That's八王子学への参加	八王子市主催第４回「学生と市長とのふれあいトーク（That's八王子学）」にゼミ生が参加し、提言を行いました。	総合政策学部 外国語学部	総合政策学部生 外国語学部生	―

八王子市立加住中学校でのメンタルサポート活動

【活動の目的と概要】

近隣の加住中学校において、健康診断や保健室の補助活動、相談室の訪問ボランティア、体育大会補助など多くの学生が様々なボランティア活動の機会をいただいています。特に保健室や相談室での活動は先輩から後輩へと引き継がれ、最長２年間継続して携わることができるのも大きな特徴の一つと言えるでしょう。生徒への対応における苦労話を聞くこともありますが、ボランティア活動を通して学生が大きく成長している様子が窺えます。中学校の他、加住小学校でも多くの学生が活動しており、更に近郊の公立学校や出身校など年々ボランティア活動の輪は広がってきています。

保健学部　健康福祉学科　教授　大嶺　智子

【参加学生の感想】

加住中学校でメンタルサポーターとして相談室で活動をしてもうすぐ１年になります。ボランティアの時期を含めると２年間になります。生徒との接し方に戸惑うこともありましたが、自分が積極的に関わることによってだんだんと関係が築けてきたことを実感しています。来年４月からは養護教諭として働きます。採用試験に合格できたのも、養護教諭と多くの時間を過ごし、授業見学の機会を得て先生方からも多くのことを学び、更に「学校で働きたい！」と強く思わせてくれた生徒たちのお陰です。失敗してしまうこともあり、勉強不足を痛感することもありますが、生徒と共に成長できるようこれからも頑張っていきたいと思います。

保健学部　健康福祉学科　４年　川上　詩織

〈事例紹介〉

八王子市立高倉小学校における英語指導

【活動の目的と概要】

八王子市立高倉小学校において、１か月に２回程度のペースで年間18回、英語活動クラブに参加している小学校３、４年生を学年毎のクラスに分けて英語を指導しています。主に指導するのは本学学生10名～15名であり、クラブ活動中、私は学生たちの補助をします。通常のボランティア活動と異なり、大学の授業と連動しているだけでなく、大学教員が同行することで児童により適した指導をすることができます。学生には授業計画や指導案の作成、指導法、児童の英語習得過程等についても指導していることから、児童英語教師養成も兼ねた活動となっております。

外国語学部　英語学科　助教　小林　輝美

【参加学生の感想】

この高倉小学校での実習は、子どもたちと共にわたしたちも成長できた活動だと思います。普段、小学校３、４年生という多感な時期の子どもたちと触れ合う機会の少ないわたしたちは、戸惑いだらけでした。思ったとおりにいかなかったり、その不安な気持ちとは逆に子どもたちがわたしたちの思った以上のことをやってくれて驚いたり、たくさんの気持ちを共有できたと思っています。わたしたちも子どもたちからたくさんのことを教えてもらってたくさんのことを吸収できた、貴重な体験となりました。

外国語学部　英語学科　3年　内田万里子

昭島市立清泉中学校の生徒と留学生との交流

【活動の目的と概要】

平成20年12月５日、昭島市立清泉中学校の２年生61人が八王子キャンパスを訪れ、外国語学部と総合政策学部に所属する留学生17人と交流を深めました。この交流会は、同中学校で実施している「国際理解」フィールドワークの活動の一環で毎年この時期に行われているものです。今回、本学からはネパール、ベトナム、マレーシア、スリランカ、中国、韓国、台湾、香港 出身の留学生が参加しました。

交流会は、中学生２～７人に留学生１人がつくというグループ単位で行われました。中学生は事前に同じグループになる留学生の出身国について調べ、食生活や生活様式など日本の文化との違いについて、また環境問題への取り組みなどたくさんの質問をし、留学生はそれらの質問に対してパワーポイントの資料や写真パネルで紹介するなど丁寧に答えていました。なかには、民族衣装を試着させながら着用の意味を説明するなど、言葉だけでなく実物を見せ、感じてもらうことで、出身国について更に深く理解してもらおうとする留学生もいました。留学生にとっては、日本の中学生が自分の国についてどのような印象、考えをもっているのかを知ることができたほか、改めて自分の国について考える機会となったようで、和やかな雰囲気の中で有意義な交流会ができたようです。

学生課　岩本久美子

【参加学生の感想】

昭島市立清泉中学の先生方と私の母国 スリランカに興味を持っていただいた生徒の皆さんにお礼を言いたいと思います。生徒の皆さんはスリランカについて様々な質問をしてくれました。日本とスリランカの文化の相違を皆と一緒に考えたり説明したりできてとても楽しかったし、私が中学生だった頃の思いがよみがえりました。短い時間でしたが、スリランカの言葉や習慣を教えたり、サリーの着方や紅茶の作り方を教えたりすることができました。

スリランカのサリーを実際に着てもらい、喜んでくれたこともよかったです。慣れないせいか、サリーを着てから歩く姿がおかしく、皆で笑いました。スリランカの歴史と現在の様子も話しました。中学生の皆さんが、今後スリランカについて学んでみようというきっかけになればとレジュメを作って渡しました。伝えたいことや中学生の話もたくさん聞きたかったので、もっと時間があればよかったと感じるほど楽しく、忘れられない一日でした。

最後に皆が「ボホーマストゥティイ（ありがとう）」と言ってくれてとても感動しました。

総合政策学部　企業経営学科　3年　ガネゴダケ　ランガニ　カンチャナ

教育面での交流活動一覧

実施年月日	取組タイトル	内容	担当教員	学生の参加	場所
平成19 ～20年度	プールの水泳指導	プールの水泳指導前：人工呼吸・心臓マッサージ、ＡＥＤ等指導を行いました。	保健学部	保健学部生	八王子市内各小学校
平成19 ～20年度	八王子市少年・中学野球指導	八王子市少年・中学野球指導を行いました。	保健学部	―	八王子市内野球場
平成19 ～20年度	性のピアカウンセリングを実施	教員・学生５名が、中高校生約10人を対象に性のピアカウンセリングを実施しました。ロールプレイを通して、自分の気持ちを相手に伝えることを体験しました。	保健学部	保健学部生	こどものうち八栄寮
平成19年９月	児童養護施設における勉強会等	教員・学生３名による、児童養護施設の４歳～小学生対象の『いのちのお話し会』、施設職員対象の幼児期の性教育の勉強会を実施しました。	保健学部	保健学部生	こどものうち八栄寮
平成19年６月 ～８月	保健室補助ボランティア	保健室補助、移動教室・臨海学校養護担当。教職課程学生を派遣しました。	保健学部	保健学部生	東京学芸大学附属小学校（大泉、世田谷、小金井）、附属高校
平成19年 ～20年度	八王子市小・中学校における各種活動補助	学生による定期健康診断の補助活動、訪問ボランティア（話し相手・遊び相手、保健関連資料整理）、体育大会補助、サタデースクール・モーニングスクール講師、部活動の指導、課外活動の補助を行いました。	保健学部・学生課 総合政策学部 外国語学部	総合政策学部 保健学部 外国語学部	八王子市立 加住小・中学校
平成19年 ～20年度	八王子市域23大学等留学生日本語弁論大会	本学教員が審査員を担当し本学留学生が出場しました。	外国語学部	外国語学部生	八王子学園都市センター
平成19年 ～20年度	国際交流事業への参加	八王子市学園都市文化課主催の各種国際交流事業に留学生が参加しました。	国際交流センター	総合政策学部生 外国語学部生	
平成19 ～20年度	バドミントンの指導	本学バドミントン部による加住中学校バドミントン部への指導を行いました。	学生課	バドミントン部部員	八王子市立加住中学校
平成19年 ～20年度	英語教育ボランティア	八王子市立３中で英語教育ボランティアを行いました。	学生課	外国語学部生	八王子市立第３中学校
平成19年 ～20年度	サタデースクール講師	夏休み期間中、加住小学校児童を対象に算数、国語のボランティア講師を行いました。	学生課	外国語学部生	八王子市立加住小学校

平成19年～平成20年度公開講演会

実施日	テーマ	担当者
平成19年　5月26日	知っておきたい脳卒中の話	医学部　脳卒中センター：栗田浩樹ほか
平成19年　6月16日	いのちのエンジニア	保健学部　中島章夫
平成19年　7月　3日	6者協議の行方と日本の安全保障	総合政策学部　倉田秀也
平成19年　7月21日	増え続ける慢性肺疾患	医学部　和田裕雄
平成19年　8月21日	日本語おもしろ塾	外国語学部　金田一秀穂
平成19年　9月8日	変形性膝関節症の疑問ズバリお答えします	医学部　小谷明弘
平成19年　9月21日	現代人の心のストレス	保健学部　田島　治
平成19年　9月29日	子どもの力をのばすコミュニケーション術	保健学部　柳澤厚生
平成19年10月13日	増えてきた前立腺がん	医学部　桶川隆嗣
平成19年10月20日	貧血から知る怖い病気	保健学部　東　克巳
平成19年10月24日	スポーツドクターがすすめる運動法	医学部　林　光俊
平成19年10月29日	明日はあなたも裁判員!?	総合政策学部　岩隈道洋
平成19年11月　9日	ロシアの再興とプーチン大統領の北東アジア政策	総合政策学部　斎藤元秀
平成19年11月17日	ゲルマンの英雄世界	外国語学部　伊藤　盡
平成19年12月　1日	「異文化理解」を「体験」する	外国語学部　本田弘之
平成20年　5月24日	これからのがん治療	医学部　呉屋朝幸
平成20年　6月14日	あなたの睡眠は大丈夫？	医学部　甲能直幸
平成20年　6月24日	増えてきた膵がん	医学部　杉山政則
平成20年　9月20日	まるでアニメかファンタジー	外国語学部　伊藤　盡
平成20年　9月27日	世界的規模で広がる感染症に備える	保健学部　田口晴彦
平成20年10月　2日	イギリス近代小説の源流を探る	外国語学部　原田範行
平成20年10月11日	ここまで来た乳がん診療	医学部　井本　滋
平成20年10月16日	明日はあなたも裁判員!?	総合政策学部　岩隈道洋
平成20年10月24日	異文化を理解するということ	外国語学部　本田弘之
平成20年11月　1日	出版大国日本で今何が起きているのか	総合政策学部　木下　修
平成20年11月22日	生活習慣病の最新情報	保健学部　照屋浩司
平成20年11月29日	環境問題から考える日本の食生活	保健学部　長谷川めぐみ
平成20年12月11日	ことばと文化	外国語学部　玉村 禎郎
平成21年　3月14日	日本の常識、世界の非常識 異文化を理解するために	外国語学部　本田 弘之

（連続公開講座は除く）